

【委員間協議では】

本市では、本年度中に市内全ての小中学校において1人1台端末の配備が実現する予定であることから、今後、配備されたICT機器をどのように活用していくかが重要な課題となります。各校において、教職員がどのようにICT機器を活用し、授業を行っていくかによって、授業内容などに格差が生じる可能性があることから、学校を超えて連携、協力してICT機器の活用方法を研究し、全市的に情報共有を行う必要があると考えられます。

また、ICT機器の使用に慣れない教職員などの支援や、ICT機器、ソフトウェアの不調などへの対応のため、本市が配置している支援員を適切に活用し、ICT機器などの専門的な知識を持った人員を育成し、諸問題が生じた際に即時的に対応できるような体制の整備を検討するべきであるとの意見がありました。

さらに、4月、5月の臨時休業中に実施していたオンライン学習について、より一層の活用方法を検討するとともに、端末の自宅への持ち帰りの可否、自宅にインターネット環境などが整備されていない家庭の児童生徒へのフォロー、不登校対策へのオンライン学習などの活用を検討してはどうかとの意見がありました。



1人1台端末での授業



【調査を踏まえた上で、市行政に対し次の提言を行いました】

- ① ICT機器の活用について、モデル校の設置、リーダーとなる教職員の養成などを検討し、学校を超えて連携、協力してICT機器の活用方法を研究し、全市的に情報共有を行うこと。
- ② ICT機器の使用に慣れない教職員などの支援およびICT機器、ソフトウェアの不調などへの対応を即時的にできるような体制の整備を検討すること。
- ③ 端末の自宅への持ち帰りの可否、自宅にインターネット環境などが整備されていない家庭の児童生徒へのフォローなどの課題を検証するとともに、家庭学習、不登校対策へのオンライン学習の活用を推進すること。

そのほかの調査事項については、次の提言を行いました

スポーツ振興について

- ① 鈴鹿市立体育館（AGF鈴鹿体育館）の利用方法、トレーニング室の設備、スポーツ教室への参加方法などを広く周知し、利用者の増加に向けた啓発を行うこと。
- ② スポーツ行事、スポーツ教室などをより一層充実し、市民のスポーツへの関心の向上を図ること。
- ③ 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向け、関係団体などと連携し、国体の成功に向けてPRや大会運営に取り組むこと。
- ④ 鈴鹿市スポーツ協会に対しては、さらなる組織の透明性を図るとともに、より市民がスポーツに親しみ、多く参加するための取り組みの実施を促すこと。

廃棄物処理施設の現状と課題について

- ① 廃棄物処理施設の適切な運営のため、改めて、家庭ごみの分別、収集方法および家庭ごみを適切に分別することが環境問題に対して有効であることなどを周知すること。
- ② プラスチックごみに係る制度の変更について、国の動向を注視し、情報収集に努め、本市において必要となる対応を検討すること。

調査報告書は議会ホームページに掲載しています。
ぜひご覧ください

